



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2001.4.6 No. 5293

96時間スト貫徹、JRに大打撃 JRの労働運動の中心に躍り出よう！ 総決起集会委員長あいさつ

中野委員長あいさつ要旨

第二波四八時間ストを貫徹している渦中！正確に言うると二〇時間ストだが、この闘いは、JRで働く労働者に対するメツセージでもある。

JRに打撃与えたストライキ！

勝浦運転区廃止闘争から五年、のべ八〇〇本の運休という成果を残しながら、われわれのストライキがJRにダメージを与え、まだまだ万更でもない力を示し抜いた。今次闘争は、組織拡大春闘としての位置付けの中で、労組はどうするべきなのか、労働者はどうすべきか、この闘いが柱になると考える。

「ニューフロンティア二」に

痛打あえた二波のスト決起！

今回の闘いは、「ニューフロンティア二」に痛打を与えただろう。JR東労組にもダメージを与えただろうし、「四党合意」の決定に機動隊を導入するような、国労の一部幹部にも打撃を与えただろう。この闘いをひとつのステップにして動労千葉の組織拡大を実現する大きな指標を示した。

日本労働運動の帰趨を決する

一〇四七名闘争！国鉄労働運動

なぜ大規模な闘いに踏み切ったのか。闘いの意義は、JR、国鉄労働運動をめぐる大きな情勢が生まれている。「四党合意」をめぐる攻防は、国労が本当

にわれわれの友軍になれるのかどうか、闘うときは毅然と闘う労組になれるのかどうかという攻防だった。「四党合意」が通ったからといって、このままなんなりいくというものではない。これからの労働運動は、一〇四七名闘争を中心とする国鉄労働運動がどちらを向いていくのかに帰趨がかかっている。

闘う労組がJRの労働運動の

中心におどりでいく情勢到来

「JR体制」との差別・選別との闘いは、闘ってははねかえされるということが続いていたが、支配してきた体制が揺らぎ崩壊が目前に迫ってきた。闘う労組がJRの労働運動の中心におどりでいく情勢が到来している。これが今日の闘いだ。

検修・構内の全面的な外注化阻止

第二の分割・民営化を許すな！

「ニューフロンティア二」がでて、これからJRがどうやっていくのかわかってきた。鉄道会社は旅客を運ぶ手段にしか過ぎないということだ。賃金や雇用の問題、労働条件を根本から変えてしまう攻撃であり、向こう五年間で一万人を削減するという、メンテナンス部門の外注化攻撃、会社は「これには少々の痛みをとまなうが」と言っているが、冗談じゃない。一

四年前、あれほどの痛みを経験した労働者はいない。検修・構内全面外注化にはNOだ。この

攻撃は働く場所がなくなるということだ。最も大事な安全問題がどこかにいつてしまう。運転職場を中心としている動労千葉が首を縦に振るわけにはいかない。だから第二の分割・民営化だといっている。前回は、国鉄の民営化、今回は鉄道会社の在り方を変えてしまう攻撃だ。

JRで働く労働者にメツセージ

闘いの旗の下に結集せよ！

われわれの闘いは、いまJRが一体どういうことを考えているのか、どういう状況に置かれているのか、情報を送る、メツセージを送る闘いだ。

これからは具体的に外注化をさせない闘いをつくりだしていく。委託会社が嫌だという状況をつくりだすことが、この攻撃を粉砕していく道だ。組織の総力をあげて闘い抜く。

労働運動に対するたいへんな攻撃、戦争政策の推進、首切り、賃下げ、リストラの情勢の中で、デモひとつおきない。しかしもう黙っていられないという状況にきている。分割・民営化粉砕闘争のとき、熱気を取り戻し、労働者魂かくあるべきを示した闘いだ。

総連合十五回中央委員会

●とき 四月八日 十三時
●ところ DC会館

高島喜久男氏を 偲ぶ会を開催

第一波、第二波ストの合間の3月30日、高島喜久男氏を偲ぶ会が労働スクエア東京において開催されました。

高島さんは、動労千葉がジェット燃料輸送阻止闘争に立ちあがり、動労本部からの統制処分、分離・独立の時から動労千葉支援運動の中心を担っていた。動労千葉の労働学校の開設にはその代表にも就任していただきました。

偲ぶ会は司会の三角忠三・書房労組委員長の開会挨拶で始まり、呼びかけ人を代表して動労千葉の中野委員長が動労千葉と高島さんとの関係と偲ぶ会の開催の経緯、そして今春闘の二波のストライキを高島さんへのはなむけにすると挨拶しました。

その後、夫人の高島久仁子さん、會田和江さんから偲ぶ会開催のお礼と高島さんの思い出が語られました。

出席者全員で献花を行った後、三多摩の元全通の早川さんが献杯の音頭をとり、高島さんを偲んでグラスを捧げました。後半では参加者より、「出席者のことば」では高島さんの数十年來の友人をはじめ様々な分野の友人・知人の方からエピソード、思い出などが語られました。最後に元東京都議の長谷川英憲さんが閉会の挨拶を行い偲ぶ会を開催しました。



大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！